

第五十八回

静岡県保育研究大会

平成二十九年五月十七日(水) 沼津市



今年度の静岡県保育研究大会は、県内東・中・西部の持ち回りとなって初めて東部担当となり、沼津市のプラサヴェルデを会場として開催しました。

「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現を目指して」を主題とし、この度の制度改革を的確に捉え、変革の時代にある保育についてより一層深めていくべく、保育所・認定こども園の社会的意義と役割、保育実践などについて議論を深め、今後の保育の質の向上に寄与するよう積極的な意見交換が行われ、参加者同士がお互いに研鑽を深めていきました。



あわせて、これから展開していく保育士のキャリアアップ制度の静岡県版として、この保育研究大会が大きな役割を持つことは明らかであり、静岡県こども未来局鈴木紀美代局長もその意義を認め、県内の保育関係者がさらに保育の質を高めていく上で重要な大会として展開することを期待されていました。

これからも参加者はさらに増える予想されます。どの園も保育の質の向上を目指してさらに研究を深めていくことを願っています。本大会が滞りなく、また盛会裏に終了できたことは、すべての関係者の方々のおかげとここに深く感謝申し上げます。

第一分科会

テーマ 【新たな時代の保育実践
～すべての子どもにむけて～】

発表者 ①東伊豆町 稲取保育園

保育士 竹内 和美

②牧之原市菊川市学校組合立

牧之原保育園

統括主任保育士

増田 茂子

③菊川市 認定こども園西方保育園

保育士 桐田由起子

保育士 赤堀千鶴子

議長 静岡市 美和保育園

園長 望月ひろみ

助言者 静岡産業大学経営学部

教授 漁田 俊子

記録者 静岡市 たんぽぽ保育園

園長 松川 由美

発表(一) 地域の文化に触れて、
豊かな心を育む保育を目指して

～地域を園に そして 地域へ～

近年、少子化や人口減少、核家族化が進み、地域の文化や習わしが消えそうなことが心配されている。地域の行事や習わしを保育計画に取り入れ、ともに経験してきた。五歳児は憧れの「ばかばやし」に取り組み、伝統芸能を間近で見て、憧れや興味・関心を持ち、多くの人と関わりながら地域文化に触れ楽しん

だ。子ども達が地域の人に支えられていることや、愛情を身近に感じ、関わりを喜び合う気持ちが芽生え、周りの友達や大人とすすんで関わろうとする姿が見られた。

発表(二) からだを動かすっていいきもち♡
～発達に合わせた援助～

子ども達は、日々体をよく動かしているように見えるが、思うように体を動かすことができない子もみられる。発達にあった運動遊びをすること、基礎的な力を身につけて体を思いのまま動かせるのではないかと、年間を通して各年齢にあった運動遊びを学び実践してきた。年齢ごとの活動の違いや身体構造を知り、それらをふまえた援助によっていろいろな遊びに挑戦する意欲がみられ、できた時の満足感や達成感を味わうことができた。

発表(三) 乳幼児期に培いたい

丈夫な体と心を育てる豊かな遊び
～生きる力を育む保育を目指して～

近年、社会環境や生活様式の変化で体運動かして遊ぶ機会が減少していることから平成二四年幼児期運動指針が策定された。園の子ども達が置かれている環境や体力等の現状をアンケートや体力測定を行い把握した。また、運動指針に記されている運動の意義や期待される効果をふまえて園で行っている体を使った遊びを検証した。園の伝統になっている探検のよさを改めて確認し、乳幼児期の様々な運動経験が豊かな人生を送るための基盤づく

りの一つになっていることが確認できた。

助言者より

三発表とも研究の位置づけや視点がまとまっており、よい研究だった。PDCAサイクルを回して実践の振り返りがされていた。新保育所保育指針にも研修の大切さがうたわれているが、研究を続けていくのは大変な面もある。しかし、保育実践を振り返ることで保育の質が向上する。具体的な自己評価も大切である。保育者として、どんな時も安全と愛着・信頼形成を座標軸としよう。その上に各園の保育がある。



第二分科会

テーマ【配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて】

発表者 ①御殿場市 みなみ保育園

保育士 宮崎 純子

保育士 栗原 真帆

②興津北こども園

保育教諭 望月 仁美

③磐田市 いずみ第二保育園

保育士 一柳 水希

磐田市 風の森保育園

保育士 坂本真理子

議長 森町 摩耶保育園

園長 水谷 尚禎

助言者 静岡大学教育学部

教授 香野 毅

記録者 袋井市 たんぽぽ保育園

園長 山崎正太郎

発表(一) 配慮を必要とする子どもや

家庭への支援にむけて

～専門機関との連携と保育の実際～

二歳の女の子Kちゃんは想像以上に強いこだわりで向き合い方の難しさと保護者との間に一歩踏み込めない壁を感じた。専門機関に相談をして臨床心理士の先生と保護者面談に持ち込むことができたが、保護者の理解を得ることは困難であった。Kちゃんが現在、在園している保育園に状況を伝え、臨床心理士

の先生・保健師さんと連携してより良い保育を続けてくれています。今後も専門機関との連携を密にしていきたい。

発表(二) 配慮を必要とする子どもや

家庭への支援に向けて

～友達とのかかわりの中で育ちあう～

子どもの特性や発達様々である。支援サポート強化事業を通して専門家や他園の保育者からアドバイスを頂くことで自信を持つ対象児にかかわることができ、支援の幅が広がりました。応用行動分析やエピソード描き、サポートプランと照らし合わせて事例を検討することで子ども同士の姿と保育者の対応を見つめ直した。発達支援は配慮を必要とする子だけを考えて行うものではなく、周りの子どもたちとの関係性の中で育ち合っていることを理解することが出来た。

発表(三) 配慮を必要とする子どもと

家庭の保育の充実

～気になる子どもの保育と家庭支援～

近年、気になる子の姿が多く見られる。アセスメントシートを活用して多面から子どもの実態を理解し、保育や環境を振り返ることとでその子の支援すべきところをおさえ、丁寧に保育することができた。アンケートからは多くの家庭が「子育ては楽しい」と感じている一方、二歳児の楽しいと感じる割合が他の年齢よりも低いこと、気軽に悩みを相談できる相手として保育士の割合が低いというこ

とが見えてきた。

助言者より

今回の発表は診断名が前面に出てこない内容になっていた。診断名は子どもを理解するための一つとしては有効だが、その扱いは保護者・保育者にとって難しいものだった。今回の発表ではAちゃんBちゃんの世界観があって、それが優先されて発表されていたのが素晴らしかった。我々が勉強するときには診断名が必要だが、目の前の子どもたちへの保育において診断名がどの程度の意味を持つのか改めて考える機会だと思う。



第三分科会

テーマ【保育者の資質向上を図る】

発表者 ①御殿場市立印野こども園

園長 勝又 康代

御殿場市立高根第一保育園

副園長 阿部 真

御殿場市立玉穂第一保育園

保育教諭 安司 絵美

②牧之原市 牧之原市立坂部保育園

園長 大窪 妙子

保育士 八木 香里

③浜松市 認定こども園きじの里

主幹保育教諭 柳谷 翔

議長 沼津市 いずみ保育園

園長 十八公浄滋

助言者 常葉大学

教授 山本 陸

記録者 沼津市 いずみ保育園

主任保育士 橘田 浩代

発表(一) 職員の資質向上を図る

～職員一人ひとりが園全体のために 企画する園内研修～

御殿場市は市内の九ヶ園を中心に資質向上委員会を立ち上げ、三ヶ月ごとテーマを決めて各園主体的研修を行い企画も全職員が担当職員間でプレゼンテーションをした。ピラミッド的組織作りを目指し研修後はステップアップと言う研修通信紙を作成、意見交換や考

察をし、次回へと続けている。資質向上自己チェック表(九十三項目)も毎年度はじめにチェックすることで弱い部分もわかり見直すことができ、研修後再度チェックし反省を生かす。

発表(二) 保育者の資質向上を図る

～園の現状を見つめて保育士の取り組み～

園の研修の活用として毎月の園内研修と職員会議、そして市内牧之原市研修会参加の三本立てで行っている。月案を中心に月々のつまりきで保育を振り返ることにより同時に資質向上にも繋がる。園全体よりアドバイスを受けながら個々の行動観察をし記録をする。グループ討論をすることにより援助するポイントがわかり担任保育士自身の負担が減る。若い保育士のアイデアやベテラン保育士の経験が相乗効果となり、共通理解にも繋がった。

発表(三) 職員の資質向上を図る

～実習生指導から見直す保育の資質向上～

実習生と共に研修、話し合いをすることで指導する先生の資質の向上をも目的とした。実習生側の不安、担当する先生側の不安等、園内研修を含めてグループワークをする。研修することにより振り返りができ、一方的指導にも変化がでて、保育の学びの糧になっていった。指導の統一性、実習意欲の新たな発見も会議で見られた。

助言者より

テーマに沿って職員間、他園、外部研修、実習生などそれぞれ違った視点で発表されて発想が良く色々考えてあり、資質向上になる様に努めていた。資質向上のための研修は、以前は園長先生等の管理者が参加していたが最近は主任や他の研修担当の保育士の参加が多くなってきている。つまり受け身からの脱却をしている。園の風土についても研修の中で考えていくことが大切である。保育士の負担が多くなりがちな中、ワークライフバランスを整えキャリアの形成がされていくにはどう手助けをすればいいか考えていく必要がある管理能力が求められている。



第四分科会

テーマ【地域の子育て家庭への

支援の充実に向けて】

発表者 ①富士宮市 野中保育園 事務長 中村 章啓

②島田市 五和保育園 園長 山口 学世

③浜松市 子育てセンターなかせ 保育教諭 鈴木貴美子

議長 静岡市立小黒こども園 園長 小長谷妙子

助言者 静岡英和学院大学 教授 永田恵美子

記録者 静岡市立駒越こども園 園長 山田 弘美

発表(一) 子育て支援の場の構築

「対話を基軸とした相互支援の成立援助」

利用者負担なく参加し安心できる居場所となるよう「学びのドーナツ論」を参考に、向かい合う関係、肩を並べて共通のものを見合う関係、ワークシoppのような場面がどの様に展開しているのか、また、保育者がどの様なアプローチをしているのか観察した。まず保育者は肩を並べて話し合う関係から始め、初めての利用者は共同作業や肩を並べて行うワークシoppへの参加が多く、それが継続利用にも繋がっていった。また、保育者

自身がアプローチの意味付けを意識せず無自覚に行っている事が多いことも分かった。今後子育て相互支援へ活用していく。

発表(二) 地域の子育て家庭への支援の充実に向けて

「新たな時代の島田市子育てセンターの活動に向けて」

イベントを求めて出向いて行く利用者の実態がある中「育児中の支えになった」「親自身もリフレッシュできた」という意見が聞かれ、利用者の支えになっている事を実感できたが、親同士の交流や悩みの共有の場が少ないという課題も見えた。また、支援する側の資質の向上と丁寧に関わる必要性が感じられた。園長の責務として職員の育成をバックアップし、心と心をつなぐプロとして、今後も意識改革と広い見識を持ち取り組んでいきたい。

発表(三) 園児と同じ経験を

「子育て家庭の親子にも：支援ひろばと園が併設している」

利用者から「園の子どもの生活の様子を知りたい」「行事にも参加してみたい」という声が聞かれ、支援広場と園が併設されている環境を活かし、園の子どもと同じ経験をしてもらう機会を提供してきた。行事や活動を楽しみと共に、子育ての悩みを気軽に相談できる場、園児の生活の様子を見る場となり、家

庭だけでは経験できない事を通して、親自身が我が子の新しい姿を見つける事につながった。今後は、祖父母世代との交流も視野に入れ、地域の中で安心して子育てができるように援助していきたい。

助言者より

子育て支援には、保護者が何を求めているのかを知り関わっていく事が重要である。日々取り組んでいる内容でも保護者を意識した関わりが自身の資質向上に繋がっていく。毎日明るい声で親子に挨拶する保育者の支援は保護者にとって最高の心の支えになっている。全ての職員が見守ってくれている事を実感し安心感を得る事ができる。保護者が上から目線と感ぜない支援を目指してほしい。



第五分科会

テーマ【家庭や地域との連携による食育の推進】

発表者 ①沼津市 大岡保育所 主任保育士 久松 純子

副所長 高橋 清美

②静岡市立新富町こども園 副主任保育教諭 永野 真実

静岡市ほいく課 保育教諭 遠藤 晶子

③浜松市立佐鳴台保育園 保育士 高森 通榮

浜松市立鴨江保育園 保育士 中村 瑠美

議長 浜松市 れんげ保育園 園長 青山 一子

助言者 NPO法人こどもの森 理事長 吉田 隆子

記録者 浜松市 れんげ保育園 保育士 原田千紗子

発表(一) 家庭や地域との連携による食育の推進

～食べることは生きること みんなで食べようあったかごはん～

親子での畑作り体験や子ども達と実際に地域の青果店に何度も足を運び、交流を深める中で野菜への興味や関心を深めた。また、ランチョンマットを作成したり、掲示板を呼びかけだけでなく、親子で手軽に参加出来るよ

うに工夫することで、親子での会話のきっかけとなった。「食べる」という生きうるうえで大切なことを保護者とともに考えることが出来た。こういった活動を今後も継続し、食に関わるたくさんの方への感謝の心を育てていきたい。

発表(二) 家庭や地域との連携による食育推進

～子どもの眼が輝く経験を通して、食べる楽しさを広げる～

エピソード記録をもとに、五感を使って「子ども達の眼が輝くような食に関わる体験」が出来た場を設定し、研究した。茶間屋さんで話を聞いたたり、園で実際にお茶を入れ、異年齢での交流につながった。また、園での食育活動を写真にしてお知らせボードに飾ると、子どもと保護者が話すきっかけづくりになった。また、保護者の知りたことを踏まえ、お便りなどで情報発信をしていくことも大切である。園だけでなく、地域とも関わりをもつことで食への興味関心が広がった。

発表(三) 家庭や地域との連携による食育推進

～朝ごはんをたのしく食べていきいき子育て～

各家庭が実施したアンケート結果から、保護者からの一番の悩みは「忙しい中での朝食作り」であると考えた。アンケートの保護者からの意見を踏まえ、毎月のお便りにコラムや簡単な朝食メニューをレシピ化して掲載した。お便りは園内に留めず、地域へも発信す

ることで情報をさらに広げることが出来た。また、保護者の保育参加を通して、園での活動量や食事の様子を保護者に見て感じて頂くことで改めて朝食の大切さを伝えることが出来た。

助言者より

どの発表もとても素晴らしく、各園でこの取り組みを是非継続してほしい。子どもにより良い環境をつくる為には周りの大人（保育士・栄養士・保護者）の連携が最も重要である。また、保護者へのお便りは ①イラストや写真 ②子どもの様子をいきいきと伝える ③カラーにする ④文字を大きく読みやすく ⑤これなら出来ると思えるやさしい文章といった五つの視点をとらえること。保育園という「大きな食卓」を、是非皆さん楽しんで下さい。



第六分科会

テーマ【子どものより良い育ちに向けた関係機関とのネットワーク】

発表者

①伊東市 八幡野保育園

主任保育士 鈴木 直子

②静岡市保育園連合会運営委員会

沼上保育園

園長 森下 健二

③掛川市 子育てセンター

さやのもり保育園

保育士 高林 弥生

議長

熱海市 多賀保育園

副園長 原田 昌徳

助言者

横浜創英大学

教授 田中 浩之

記録者

沼津市立ときわ保育所

副所長 藤池 恵弓

発表(一) 子どものより良い育ちに向けた関係機関とのネットワーク

～多様な機関との連携と協働～

保育園がネットワークのパイプ役として、

幼・保・小の計画的な交流を行ってきた。

幼稚園、保育園の五歳児が、同等の保育レベルにあるのか、それを段差なく小学校に滑らかに移行できているか。また、小学校から中

学校へのギャップ防止へと続く、伊東市における連携プログラムが発表された。

幼・保・小・中のみならず、医療・世代間・

地域との交流も重視し、子どもの育ちを多面から支えたいと願う取り組みであった。

発表(二) 子どものより良い育ちに向けた関係機関とのネットワーク

～子どもと保護者を取り巻く様々なことから見えてくる保育所の役割～

静岡市の各保育園でアンケート調査を実施し、現在の子育てについて、保護者のニーズを探究した。問題点として保育士と保護者のコミュニケーションの重要性を確認した。

保護者とのコミュニケーションが良い形となるよう保育士の資質を高め、専門性の向上を目指し、様々な思いで子育てしている保護者と向き合えるようにしたい。

国のキャリアアップ制度の利用を推進し、県保連、その他の研修の充実を希望する。

発表(三) 子どものより良い育ちに向けた関係機関とのネットワーク

～一人ひとりの個性を大切にしたい～

保育実践に向けて

幼保一元化に伴う幼稚園、保育園再編で開園した幼児園での保育実践。支援を必要とする子どもと保護者に向けて、利用可能なサポート資源を最大に生かし、本来に必要な支援を多角的視点で考え、職員間の共通理解の為にワークシートを利用している。

プライバシーに配慮しながらいかに情報共有していくのか、保護者と協働し、子ども中心に考えていく為に安心感のある信頼関係の構築をネットワークに加味する必要がある。

助言者より

小学校の先生は幼保に学ぶ必要があると思われる。人の話を聞けるようになる、発達の

前段階を育てる技術の実際を見ると、小学校での子どもへの接し方が変わる。お互いを知る交流の大切さを各発表から感じられた。

自分の市町では当然のこととなっているネットワークシステムも他市にとっては新しい発想を得られるものである。研究テーマを与えられたことにより、保育を見直し、多角的に考える良い機会になった。



第七分科会

テーマ【保育の社会化にむけて】

～保育の営みを

いかに社会に発信するか～

発表者 ①富士市公立保育園長会

杉の木保育園

園長 上田 申子

富士市こども未来課

参事補兼主幹 高橋 久子

②焼津市 たかくさ保育園

主任保育士 山岡かづ絵

③湖西市 微笑保育園

園長 河田 宗康

議長 袋井市 ルンビニ保育園

園長 岡田 泰稔

助言者 常葉短期大学部

教授 鈴木久美子

記録者 牧之原市 細江保育園

園長 横山 滋子

発表(一) 子育ての喜びや楽しさを

いかに社会に発信するか

富士市の公立保育園では、「子育てにやさしいまち」に向けた支援事業として、保護者対象に親育ち支援、保育者一日体験事業を行っている。また、若者の子育て・保育への関心を高める取り組みとして学生の保育体験ボランティアの受け入れ、キャリア教育のための職場体験・職業講話講師派遣を行っている。

地域社会の現状や子育て環境に常に関心を持って、専門職としての役割を再認識できる活動である。今後人も育てることの重みや尊さを社会に発信し、保育力向上につながる社会資源として、公立保育園全体で取り組んでいきたい。

発表(二) たかくさ保育園における現状と課題

園からの保育発信方法やその効果について系統立てて考え、定義づけや目的を明確にしたシステム作りから始めた。保育園の役割として子育てのノウハウを提供するため対象者や目的を絞って整理した。そこから園の保育発信とこれからの課題と展望が見えてきた。職種による役割分担をし、自分たちの園で何を目的として何を実践するか明確化し、発信のサイクルを確立できるシステム作りを確認した。明確な課題意識を持つことが、充足した社会化への取り組みの第一歩であると確信できた。

発表(三) 保育の営みをいかに

社会に発信するか

子育て支援事業としてベビーマッサージや子育て講演会、わくわく広場開放を行い、母親同士の交流の場を作り、子育てを楽しめる活動を伝えている。昔から地域とのかかわりは深く、畑で収穫体験・高齢者とのふれあいや地域行事への参加などを大事にしている。また、ホームページの充実と発信により保育の営みや子育て支援情報をわかりやすく発信

している。保護者以外の方にも園への問い合わせが増え、学生も活用している。地域密着型の活動を展開することで、地域と保育園がより良い関係作りができていく。

助言者より

「社会への発信」というテーマが全体で共有できた分科会であった。発表一は、公立園の次世代を担う若者の子育て・保育への関心を高める活動報告、発表二は自園の保育の発信を系統立てて捉える試みに関する報告、発表三は地域密着型の取り組みとHPの活用等の実践報告と、それぞれの観点が提示された。結果、相互作用を生んで、参加者の理解と今後の具体的な取り組みに向けての多様な示唆が得られた。そして、発表二が提示した「知ってもらう・理解協力してもらう、そして参加してもらうための方法としての行為」であるという発信の定義をフロア全体で確認することができた。



第八分科会

テーマ【公立保育所・公立認定こども園等の

使命と地域社会での役割】

発表者

①清水町立清水保育所

所長 遊佐まゆみ

②静岡市立蒲原西部こども園

園長 望月 寿子

③磐田市立竜洋東保育園

園長 飯田 幸子

磐田市立豊田南第三保育園

園長 大石 洋恵

議長 浜松市立笠井保育園

園長 阿部 眞弓

助言者 東海大学短期大学部

教授 徳浪 芳江

記録者 浜松市立鹿島保育園

園長 山本 玲子

発表(一) 公立保育園の使命と

地域社会での役割

～未来輝く湧水(ゆうすい)の子を

みんなで応援しよう～

基本理念を達成するために様々な視点から現状を把握し、子どもにとって良質な教育・保育の提供に取り組んできた。職員の園内研修では、実践にすぐ繋がるように、回覧だけでなく短時間研修を取り入れた。また「親子」を実践し、保育参加に講演会を組み込むことで、保護者と園との結びつきを深めるこ

とが出来た。また地域との絆づくりにも力をいれた。保護者支援において、園だけでは対応できないことを行政や他機関と協力してきたい。

発表(二) 公立認定こども園の使命と

地域社会での役割

～公立小学校との継続に向けて～

三年前静岡市は全公立保育園・幼稚園を幼保連携型認定こども園に移行した。こども園から小学校への切れ目のない教育環境の充実を目指し、小学校との接続が求められている。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を幼小の連携の中心とし、出前授業の実施、職員の資質向上のための合同研修や子どもの交流を進め、アプローチャリキュラムを作成した。今後も専門機関との連携や小学校接続強化に努めたい。

発表(三) 公立保育所・公立認定こども園等の

使命と地域社会での役割

～連携と協働による質の高い教育・

保育の提供～

新保育制度の目的である「質の高い教育・保育の提供」するためにはどうしたらよいかを課題として取り組んできた。公立幼保子ども園の合同園長会の実施や合同職員研修を含め、お互いの保育を見合い、語り合い、研修を積み重ねることが保育力の向上に繋がり、養護と教育が一体となった質の高い保育ができた。子どもを中心として、園・家庭・地域

の全ての人が協働していく事が大切である。

助言者より

どの発表にも共通することが、「地域に根ざす」「保幼小接続」「質を高める」の三点であった。地域で未来の人を育てると考えることですべてがうまくいく。公立の使命は公私立の枠を超えて研修し、話し合い、みんなを同じ方向に向けるための牽引役となることである。質を高めるためには、園がどのような方向に進みたいかを明確にし、アピールすることが大事。そうすれば具体的にやることが見えてくる。また職員が一致団結して一人一人が意見を出し合うことが重要である。

